# 夏季の高温により休眠が深い種子が見受けられます。下記の留意点を確認し、良好な苗づくりに務めましょう。

## 令和７年まき 水稲種子の発芽の留意点について

今年産水稲種子の品質は平年並みですが、品種によっては登熟期の気象条件により休眠が深くなっている場合があります。播種に当たっては**「基本技術」を励行し慎重に行ってください。**

このため、育苗については以下の点に注意してください。

**※「あゆみもち」は特に休眠が深い品種として知られています。**

実施した箇所の☐に✓を付してチェックリストとして使用できます

## 1 保　管

暖かい場所で保管することで休眠から覚めやすくなります。

☐ **届いた種子は、乾燥した暖かい所で保管してください。**

## 2 塩水選（比重選）

☐ **発芽の揃いを均一にするため塩水選**によって、粒のそろったものを選びましょう。

塩水選後は、よく水洗いして塩分を取り除いてください。

・比重　うるち 1.13　もち 1.08

## 3 浸　種

浸種初期の水温が低いと種子の休眠が覚めずに、発芽率が低下します。

☐ **浸種開始 24 時間の水温は必ず 10℃以上を確保**してください。（浸種前の薬液処理の水温も含む。）

☐ 「あゆみもち」の浸種は、他の品種に比べて長く行い、**積算水温 120℃を確保**します。

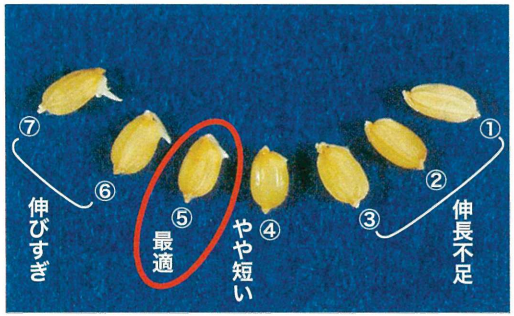
☐ **浸種期間中の水温は10～15℃**とし、数日ごとに新鮮な水と交換します。

☐ また、種子の上下を入れ替えて、浸種むらを防ぎましょう。

## 4 催　芽

☐ 催芽開始の目安は、種子が十分吸水して**あめ色に透き通り、胚が透き通って見えるようになった時**です。

☐ **催芽は80%以上の種子がハト胸になったことを確認**し、終了します。




催芽終了時の写真

## 5 播 種 量

休眠の覚醒が不十分な籾は、発芽勢が弱く苗立ちが少なくなることがあります。過度な薄播きを行うと苗立ちが不十分になることがありますので

☐ **標準的な播種量を確保**してください。

## 6 育苗初期の温度

☐ 播種後**10日の間に著しい低温（10℃以下）**にあうと苗のマット強度が著しく低下することが知られていますので、注意してください。

★ 育苗作業は各段階でのチェックが必要です。保証票の確認、催芽状況の確認を確実に行いましょう

作成：JA 全農みえ、三重県米麦協会

# 温湯消毒法について

温湯消毒法は60℃のお湯に10分間種子を浸漬することによりばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、シンガレセンチュウなどの種子伝染性の病虫害に対して防除効果が得られます。県内でも近年導入が進んでいますが、手順や留意事項を誤ると発芽不良や効果不足を引き起こします。

実施した箇所の□に✓を付してチェックリストとして使用できます

## 温湯消毒法における留意点

□ **湯の温度60℃と殺菌時間10分を厳守する。**
（湯温が高かったり殺菌時間が長かったりすると発芽率が低下する。また、湯温が低かったり殺菌時間が短かったりすると防除効果が低下する。）
※ただし、一部品種については、温湯消毒により発芽率の低下しやすいものがあるので留意する。
※種籾を温湯に入れた後に温度が低くなることがあります。投入後の温度チェックもして下さい。

□ 乾籾の状態で温湯処理を行う。

□ 塩水選する場合は、水洗いをした後**速やかに温湯処理を行う。**
（1時間以上放置すると温湯処理により発芽率が明らかに低下する。）

□ **温湯殺菌後速やかに、清水で冷却する。**
**（10℃以下の水温で冷却しない。）**
**⇒低温浸種による発芽率低下の回避のため、10℃以下の水温で冷却しない。**

□ **冷却後速やかに浸種に入るが、清水を使用し水温を10℃以上に保つ。**

□ 温湯消毒は病害の汚染が少なく、高い発芽率の指定採種ほ産種子を使用する。

□ 割れモミなどの被害粒の多いものや一部品種については温湯消毒により発芽率の低下しやすいものもあるので多めに播種するなどの留意が必要になる。

□ 温湯消毒により4～8％の発芽率の低下が起こる場合がある。極端な薄播きは避け標準的な播種量とする。

参考① 標準的な育苗日数と温度管理

| | 出芽期 | 緑化期 | 硬化期 |
|---|---|---|---|
| 育苗日数 | 2～3日 | 2日 | 13～15日 |
| 温度　昼 | 30℃ | 25～30℃ | 20～25℃ |
| 温度　夜 | 30℃ | 10～15℃ | 10℃以上 |

作成：JA全農みえ、三重県米麦協会